

第 23 回「真面目、について考える」(2012/7/8)

場所：スペインバル・リリオ（品川）

司会、文責：野田

参加者：15 人

要約：真面目という性質に関し、主に、ルールを守る、規則正しい生活を送るといった社会的な立場から捉える見方から議論しました。逆に、ある程度の困難さを伴うものにコンスタントに粘り強く取り組むといった、個人に基づいた立場から捉える見方も提出されました。

お題の説明：ごく当たり前に見える「真面目」という言葉について考えます。

内容：

1. 真面目と言う言葉自身から参加者が考えてきたこと

- ・ 真面目は性格か。
- ・ 一生懸命や、真剣に取り組むといったこととどう違うのか。
- ・ 休日に図書館に行ったり、時間より早めに行動すると、人から真面目だと言われる。しかし、単にやりたいようにやっていただけなので、真面目と言われるのが意外である。そもそも真面目でない人がいるのか。

2. 社会的な真面目

- ・ 仕事をがんばったときに、真面目だねと人から褒められるのがうれしい。
- ・ 早寝早起き、時間よりも早めの行動など、規則的な生活を送ることなども真面目と言われる。
- ・ 真面目は社会的なルールや規範を守ることである。その意味では善に近い。とはいえ、ルールや規範をあくまで形式的に守っていることが真面目である。ルールや規範を変えてまで善を追求しようということではない。⇒これに対し、真面目を個人の立場から捉えて、善から切り離して考える見方も提示されました。「3.個人に基づいた立場からの真面目」参照のこと。
- ・ 一生懸命と真面目は異なる。真面目は「真面目なサラリーマン」のように、社会的制約を受けている場合である。個人的利益や、社会に対する影響を考慮している。一生懸命は、個人的な楽しみの場合もある。
- ・ 真面目であることは、社会にとって良いことであるため、真面目であることを賞賛する。逆に融通が聞かない、楽しみを追求しないなどの意味で揶揄する場合もある。
- ・ 真面目であっても得点にはならない。逆に不真面目だとマイナスポイントである。
- ・ 真面目な人は、社会の中のマナーやルールを守っている。本来やりたいことが社会の規範からずれていても構わずやり遂げる人は不真面目だと評価されるが、一方で格好良いと思われることがある。

3. 個人に基づいた立場からの真面目

- ある程度の困難さを伴うものにコンスタントに粘り強く取り組むといった姿勢、又は性格のことである。努力家であるとか、何かを達成するための道具的ポジションである。取り組むものの性質にはよらないため、この観点からは、善悪とは関係しない (⇒「2. 社会的な真面目」参照のこと)。
- 本人は、真面目になろうとは思っていない。何かを達成しようとして、結果として真面目になる。これに対し、真面目は美德の一種であり、自分は自らの美德を意識的に促進するよう日常的に努めているという意見も出されました。
- 何かに熱心に取り組んでいたとしても、欲望に駆られていて無我夢中であると、真面目であるとは言えない。
- 対象に集中する余り、周りが見えない、融通が利かないことを揶揄することもある。こそ真面目。

真面目について、社会的規範を守るという意味と、真剣に取り組むという意味の二つが何故あるかについても議論が及びました。これに対し、一般的に、言葉の持つ意味は歴史的な状況により変化するため、複数の意味を持つことがあるとの言及がありました。時間があれば、真面目について何故二つの意味があるか、更に掘り下げたいと感じました。